

第5回「ATAMI2030会議」

熱海リノベーションまちづくり構想検討委員会

日 時 平成29年1月31日(火)

18:00～20:30

場 所 熱海市役所第3庁舎3階 市議会議場
中央町1-1

今年度熱海市では「リノベーションまちづくりと融合した創業支援による地域活性化」事業の一環として、リノベーションまちづくり構想を策定します。

策定にあたっては、不動産オーナーや有識者による委員会を設置し、今回を含め年度6回の公開型会議を開催いたします。この会議は、市民や民間事業者、創業希望者など様々な方にご参加いただき、2030年を見据えた熱海の「暮らし」「仕事」「ツーリズム」を考え、行動に移すきっかけの場にしたいと考えています。

遊休化した不動産という空間資源と潜在的な地域資源を活用して、民間自立型プロジェクトを起こし地域を活性化し、都市、地域経営課題を複合的に解決するため、熱海のまちを変える方向性をみんなが議論し、構想という形でまとめます。

第5回目は「ツーリズム」をテーマに、ゲストによるトークや実践者によるミニトークを行った後、会場を交えた意見交換を行いました。

○次第

1. あいさつ・・・熱海市観光経済課 課長 立見 修司
2. 開催趣旨と今回のテーマのご説明・・・熱海市観光経済課産業振興室 主幹 長谷川 智志
3. 実践者ミニトーク × 2
常葉大学経営学部 教授 大久保 あかね 氏
株式会社 JTB 中部 地域交流推進課長 木村 ともえ 氏
4. ゲストトーク「宿泊産業論～宿づくり・街づくりの視点から～」
株式会社 亀や 代表取締役社長 阿部 公和 氏
5. 実践者ミニトーク × 2
株式会社 ブルースタジオ 専務取締役 大島 芳彦 氏
株式会社 machimori 代表取締役 市来 広一郎 氏
6. 構想骨子説明
7. 会場も交えた意見交換

○内 容

まず初めに、第5回「ATAMI2030会議」の開催にあたり、熱海市観光経済課長立見から、この会議も5回目を迎え「ツーリズム」ということでいよいよ熱海の本丸に切り込むような話も出るのではと思っている。熱海の観光はどちらかというと古いタイプの観光と言われている。その古いタイプの観光が皆様の意見を頂戴し、いかに日本で最先端な観光地になれるのか興味を持って聞きたいと思っている。そして、会を開催するにあたり、議長及び議会事務局の方のご協力で今回の会場を使用できるようになったとの挨拶に続き、市の担当者からこの会議の趣旨及び前回までの会議の概要並びに今回のテーマ設定、「ツーリズム」の説明が行われました。



その後、実践者ミニトークとして「熱海の観光と発展の歴史的背景」と題し、常葉大学経営学部教授の大久保あかね氏による、お話をいただきました。熱海は今まで5回の大きなモデルチェンジがなされたまちで現在は6回目のモデルチェンジの最中である。そしてどこよりも早く変わることによって日本の観光をリードしてきた、ファンが多いまちで、人・物・金が集まってきた歴史あるまち。そして常に10～20年先を進んできたまちだからこそ、新しいスタイルで日本の観光を作っていくことが本来の熱海なのではというお話のあと、株式会社 JTB 中部地域交流推進課長の木村ともえ氏による観光プロモーション「意外とあたま」のお話をいただきました。熱海は大変パワーがある方が多かったです。しかし、まとめる方がいない。そしてバラバラになってしまっていてパワーが終結されていないという問題があった。その問題を解決するための観光プロモーションが「意外とあたま」だった。さらに、住民と外の方のギャップが激しかった。もともと良いものなのに求めているものと伝えているものが繋がらないというのは不幸であり、「伝わる」と「伝える」を結びつけたことがシティプロモーションの大きなものであった。また、沢山のものがあるので単純にひとくくにするために「意外とあたま」とした。これは東日本大震災で打撃を負い、自信を無くしていた住民の方が一丸となるための意味もあったというお話をいただきました。

その後、ゲストトークとして「宿泊産業論～宿づくり・街づくりの視点から～」と題し、株式会社亀や代表取締役社長阿部公和氏による自身の経験、出会いを通しての宿づくり、街づくりまで至った経緯の説明が行われました。

その後、再び実践者ミニトークが行われました。「まちを宿にする」と題し、イタリアのまちで実際にある宿泊形態、アルベルゴディフーズの話から日本におけるまち宿の概念を株式会社ブルースタジオ専務取締役大島芳彦氏にいただいたあと、株式会社 machimori 代表取締役市来広一郎氏による「ゲストハウス MARUYA から起きていること」と題し、熱海のゲストハウスとしての役割や楽しみ方、インバウンド需要の可能性等お話いただきました。



休憩後、市の担当者から構想骨子の説明を行いました。

その後、委員を含めた約80名の参加者による意見交換が行われました。

内田委員からはこれからの宿泊業は施設整備されているのは当たり前になっている。ではどこで差をつけるのかということで、人材であるとの話がなされました。その人材獲得戦争のなかで熱海に圧倒的に足りないものは住環境である。住環境の整備を、時間を掛けずにスピーディに解決する必要があり、専門家や行政の力を借りたいとの話がされました。

市来委員からは、この間のリノベーションスクールでも住環境(シェアハウス)の提案がされていたし、machimori としても力を入れていきたいと考えているとの話がされました。

→リノベーションスクールで提案したが、熱海で働く人の独身寮のシェアハウスを本気でやりたいと

考えている。みなさんの情報やニーズなど伺えたらと思っています。ご協力お願いいたします。(齊藤氏)

江口委員からは、理念を持った人をネットワーク化するのが大事だと感じた。もう少し簡単に言うところの人たちで仲間となり、つながりを大事にすることだと思う。

その他意見

- ・従来は介護タクシー事業を行っているが、車椅子での観光のお手伝いもしている。旅館との兼ね合いで花火時の受入れが叶わなかったことがある。今後2030年に向けて、連携が取れればと思ったし協力したいと思った。
- ・西山にある祖父がアトリエとして所有していた遊休化した不動産を合宿施設のようなものにしたいと思い、創業プログラムに申し込んだ。ものづくりをとおり小さな課題大きな課題を解決できるような場に出ればと思っている。ご意見・協力をお願いします。
- ・子育てをしているママを応援したいとおもいボランティアをしていたが、熱海は子育てがしにくい。それを改善できればと思い、私も創業プログラムに申し込んだ。一つ聞きたいことは、阿部さんは多くの人との出会いを経験されてきていますが、経緯なのか人柄なのか何があったのかお伺いしたい。
→阿部家の反省から自分がどんなに馬鹿だったか自覚し、出来ないことは人をお願いしようと思ったことと、仏壇・神棚をちゃんと拝むようにした。宗教とかではなく、何かというとちゃんと物や人に感謝できるようになったこと。こうしたことから人との出会いが繋がったと考えられる。(阿部氏)
- ・今がまさにまちの変化を感じられた、会議だった。
- ・いろんなところに出かけ、いろんな地域を知り、その地域が発展していけばよいと感じた会だった。

